

アイヌ生活文化再現マニュアル

「タラ・  
エムシアツ」  
編む



アイヌ生活文化再現マニュアル

# 編む

— タラ・エムシアツ —

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

## 発刊にあたって

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、平成9年7月の設立以来、アイヌ文化の振興、アイヌの伝統やアイヌ文化に関する知識の普及と啓発、アイヌ文化等に関する研究の推進や助成などの各種事業を実施しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などによって記録し、アイヌの人々をはじめとして、広く一般の人々や研究者の利用に供することにより、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的としています。

本マニュアルがより多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

## 目 次

|                |    |
|----------------|----|
| タラとエムシアツ       |    |
| 萱野さんの編み方 ..... | 9  |
| 遠山さんの編み方 ..... | 10 |

### ～タラ（背負い縄）～

#### 部位の名称と寸法

#### 材料

#### 道具

#### たて糸の準備

|            |    |
|------------|----|
| 編み始め ..... | 20 |
|------------|----|

#### タリベを編む

|                |    |
|----------------|----|
| 始まり .....      | 22 |
| 菱形文様 .....     | 24 |
| 木綿糸を足す場合 ..... | 27 |
| 編み終わり .....    | 28 |

#### 縄部分を編む

|               |    |
|---------------|----|
| 8本編み（3本）..... | 29 |
| 8本編み（1本）..... | 32 |
| 縄編み .....     | 34 |

#### タラの使い方

|                  |    |
|------------------|----|
| イエオマブ（おぶい紐）..... | 35 |
|------------------|----|

### ～エムシアツ（刀下げ）～

#### 部位の名称と寸法

#### 材料

#### 道具

#### たて糸の準備

#### エムシタラ（無地部分）を編む

|                     |    |
|---------------------|----|
| 編み始め .....          | 41 |
| 肩にあたる部分の文様を編む ..... | 43 |
| 地文様 .....           | 44 |
| たて糸の増やし方 .....      | 45 |

|                            |    |
|----------------------------|----|
| <b>エムシタラ（文様部分）を編む</b>      |    |
| 亀甲文様 .....                 | 47 |
| <b>エムシクツ（刀通し部分）を編む</b>     |    |
| 裏の処理 .....                 | 54 |
| <b>エムシプサをつくる</b>           |    |
| 紐 .....                    | 57 |
| <br>                       |    |
| おわりに .....                 | 59 |
| 参考文献 .....                 | 61 |
| タラ・エムシアツを収蔵・展示している施設 ..... | 62 |

## タラとエムシアッ

物を運ぶ時に使う背負い縄をアイヌ語でタラといいます。山へ狩りに行く時には、腰に下げて持ち歩いていました。背負う時には縄で荷物をしばり、タリベと呼ばれる帯状の部分を頭にあって使います。アイヌの人々が使っていた運搬具のひとつです。

一方、アイヌの男性が儀礼の際に、刀を盛装として身につけるための帯をアイヌ語でエムシアッといいます。儀礼のほかに、刀を壁や祭壇に掛ける時にも使われました。刀吊帯、太刀帯、刀掛帯などと訳され、江戸時代よりアイヌの手工芸品の代表的なものの一つとして紹介されてきました。

オヒョウ、シナの木の内皮やツルウメモドキの繊維などを材料として使いました。今回再現するタラとエムシアッの帯状の部分は、たて糸に木綿糸を巻いて文様を編みます。

地域や作者によって編み方や材料は異なりますが、2つの作品の文様部分は装飾としての美しさと、道具としての丈夫さを兼ね備えています。



タラは平取町二風谷在住の萱野れい子さんが、エムシアッは浦河町姉茶在住の遠山サキさんが、それぞれ再現します。

帯状の部分に文様を編むという共通の作業において、二人が選ぶ糸の種類や太さ、道具、編む姿勢にも違いがあります。しかしどちらの方法で編んでも、ここで紹介するものを再現することができます。

腰帯を使ってたて糸を固定し、  
下から上に向かって編みます。



タラを編む萱野れい子さん

たて糸を吊るして、  
上から下に向かって編みます。



エムシアッを編む遠山サキさん

文様は、中央から上下・左右対称に広がるものです。



タラ・エムシアッに関するアイヌ語

- エムシ : 刀
- エムシアッ : 刀を肩から下げる帯
- アシカ : たて糸
- アッ : オヒョウ
- タラ : 背負い縄
- タリベ : 荷物を背負う縄の額にあたる広い部分

(『萱野茂のアイヌ語辞典』より)

## 萱野さんの編み方

2色の木綿糸を裏側で回転させ、次に使う色の糸を上に出していく方法です。  
糸は、右に進む時は右へ、左へ進む時は左へと回転させます。

同じ色が続く場合 糸を2回転して表に出します。

色を変える場合 糸を1回転して表に出します。



裏



表

裏から見た図

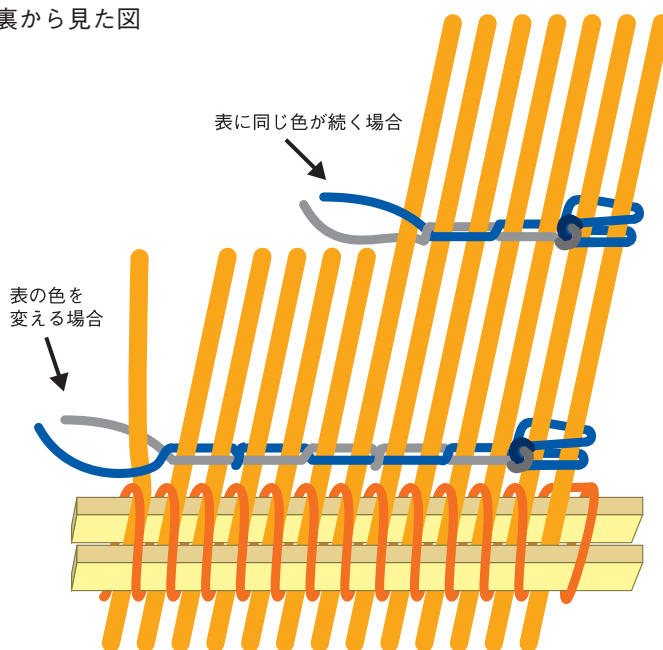


図1

## 遠山さんの編み方

刺し子糸を表側で回転させる編み方です。

### 右に向かって編む場合

表になる茶の糸を右に引きます。



たて糸を割って、裏から白の糸を出します。



上から白の糸を裏へ落とします。



裏で白の糸を、上へ引きます。



刺し子糸を上を持ち上げるにより、目が縮まり、きれいな編み目になります。

左に向かって編む場合

- ① たて糸を分けて裏から糸を出す。
- ② 2本の糸を上にあげる。
- ③ 左方向に、表に出る糸をのばし親指で押さえる。
- ④ 裏になる白の糸を上から落とす。
- ⑤ 白の糸を裏から引く。



# タラ (背負い縄)

文様が編まれた帯状の部分は、アイヌ語でタリベといい頭にあてて使います。その両側の縄部分は、荷物を結ぶためのもので8本編みと縄編みにします。

## 部位の名称と寸法



### タラの製作順

1. たて糸をつくる
2. タリペを編む
3. 縄部分を編む

## 材料

- ・たて糸 シナの木の内皮 36本  
※以下、シナと略す
- ・よこ糸 木綿糸（白・紺、太さ1mm）



写真1

## 道具



写真2

腰にあてる帯や棒は、アットウシ織りをする時にも使います。

## たて糸の準備

シナで、たて糸を撚ります。



写真 3

7 mmほどの幅に裂き、水を霧吹きしておきます。



写真 4

たて糸の中心になる部分を決めます。



写真 5

洗濯ばさみで止めて、撚っていきます。



写真6

長いシナに短めのシナを継ぎ足しながら、直径5mm程のたて糸を撚ります。



写真7

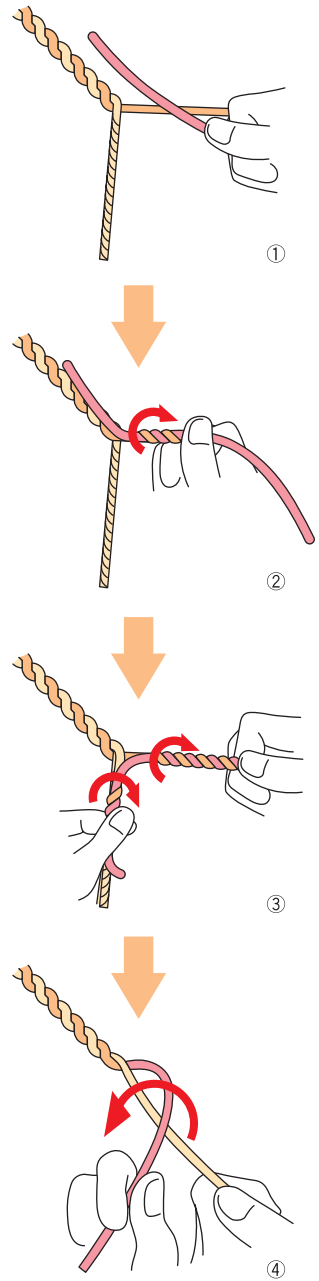


図2

タリペになる部分は太め、縄を編む部分は細めにします。  
たて糸の先はあとから足せるように、切らずにおきます。



写真 8



中心から両側20cmが太い部分で直径 5 mm  
細い部分は40cmで直径 3 mm

図 3

たて糸の中心から40cmほどのところをヤチハギの棒に巻いてまとめ、ゴム紐で固定します。



写真9-1



写真9-2

たて糸の間に指を入れ、手前に糸を引きながら揃えます。



写真10-1



写真10-2

手前に引いたたて糸も、同じようにヤチハギの棒に巻き長い棒に固定します。長い棒は、腰帯を使って体と固定します。



写真11

棒から10cmほど上の部分を締め木ではさみ、両端を輪ゴムで止めます。

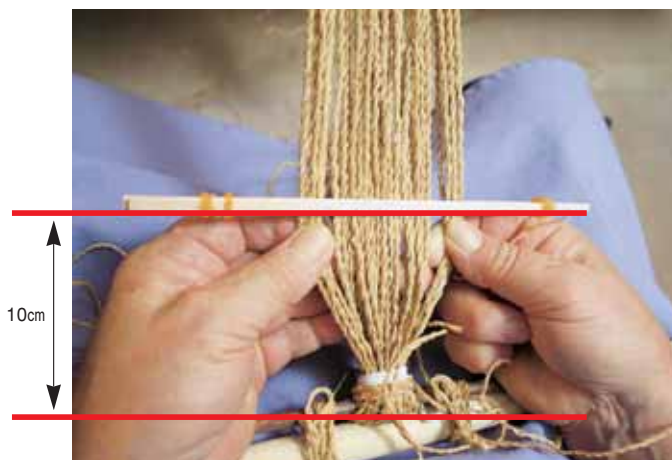


写真12

細い糸を使い、たて糸を1本ずつ割り箸に固定していきます。

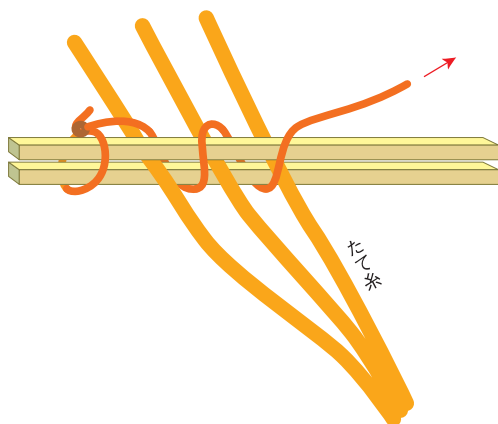


図 4



写真13

たて糸が上下まっすぐになるように反対側も同じように揃え、締め木に止めます。



写真14

たるんでいるたて糸は引いて、根元で結び直します。



写真15

## 編み始め

《目数の数え方》

- 1目…たて糸2本で編んだ目
- 半目…たて糸1本で編んだ目

《段の数え方》

- 行き（右から左）で1段
- 戻り（左から右）で1段

紺と白の2色の綿糸を結び、1本にして使います。

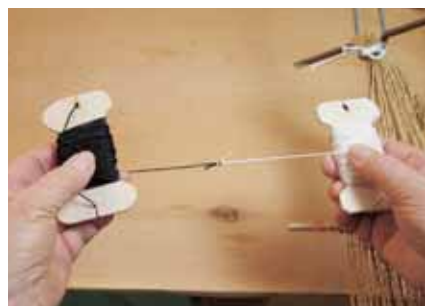


写真16

編み始めは、左2本のたて糸に紺の糸を2回巻きます。  
糸の結び目は、裏になるようにします。



写真17

裏から見た図

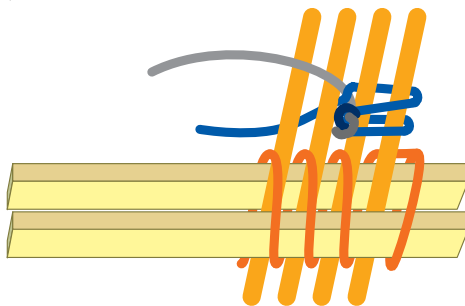


図5-1

表から見た図

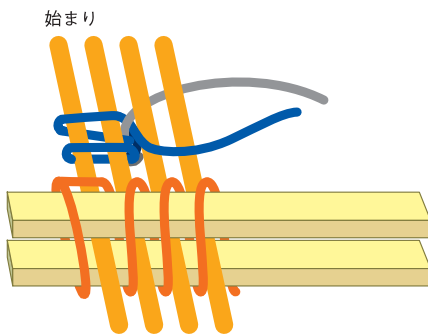


図5-2

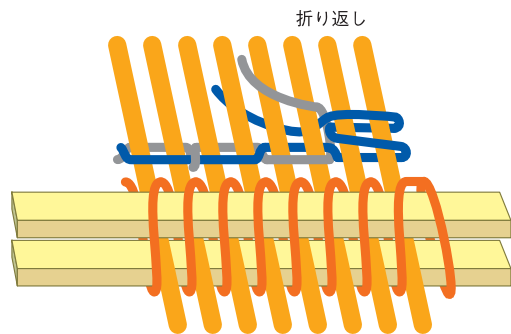


図5-3

編み始めの処理は、「行き」の時も「戻り」の時も同じです。

## タリペを編む

### 始まり

紺2目・白2目を交互に配色して編みます。両端2目は最後まで紺で編みます。

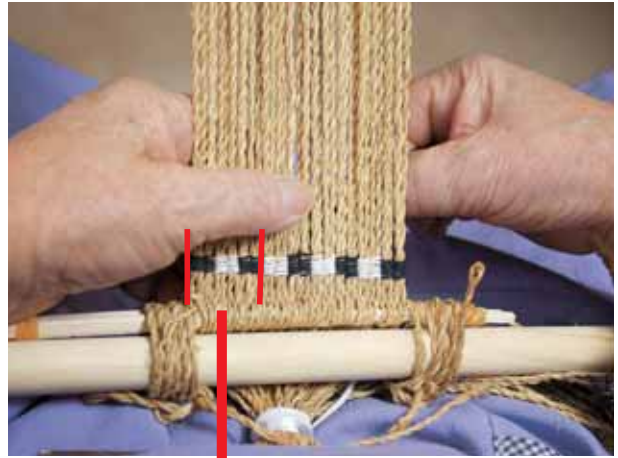


写真18

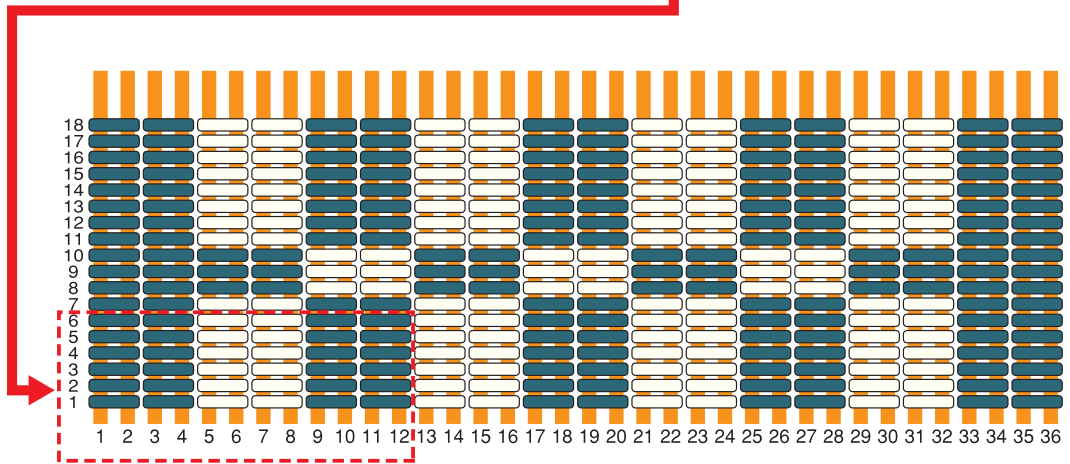


図6

1段目 左から6目までの裏側の糸づかい  
 紺 紺 白 白 紺 紺

糸づかい  
 2回まわし→1回まわし→2回まわし→1回まわし→2回まわし

8段目から白のところを紺に、紺のところを白に変えて3段編みます。



写真19

11段目から8段は、編み始めと同じ配色です。  
文様は下から上に向かって、できあがります。



写真20

萱野さんは文様をきれいに仕上げるために指や先が尖ったもので編み目を下に詰め、たて糸が見えないようにします。

## 菱形文様

19段目から菱形文様を編み始めます。

この段は左右それぞれ5本目が半目となり、この半目が斜めの線の1段目となります。26段目で菱形文様の半分、三角が左右に、中央に逆三角形ができあがります。

文様を上下対称に6段編むと、中央に菱形文様ができあがります。

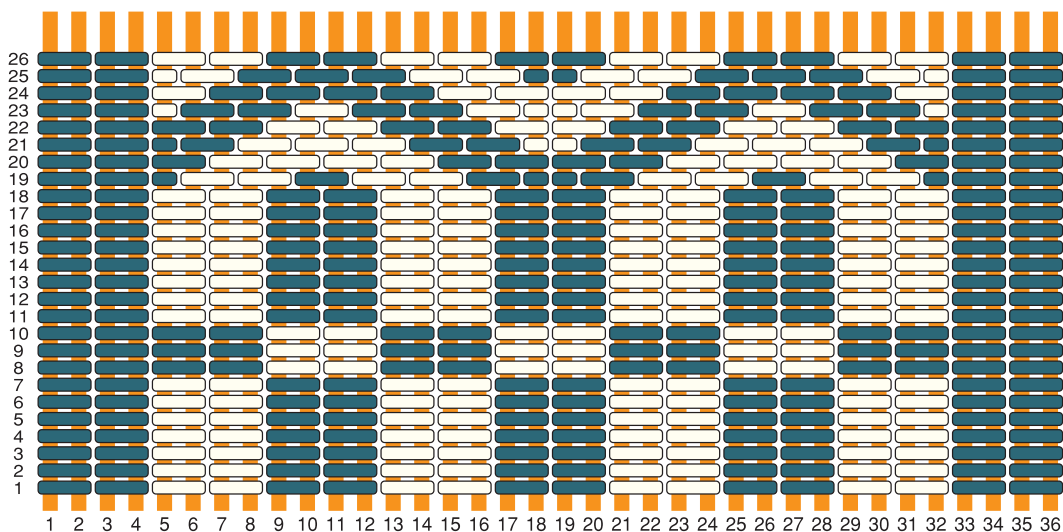


図7

今回の文様では、右から戻る時は1目編みです。左から行きの時は、両端5本目が半目です。

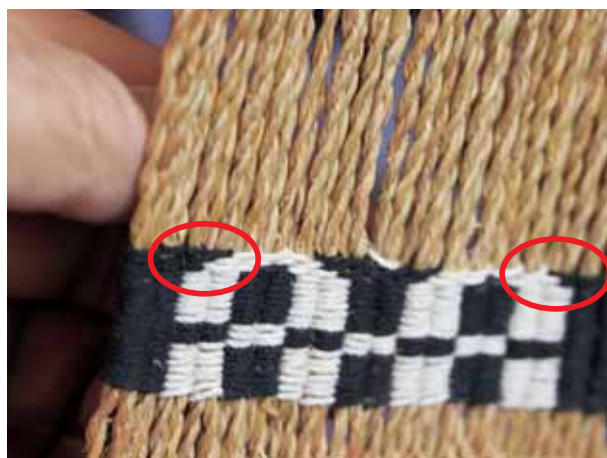


写真21

たて糸10本目、26本目を中心に、菱形の下の部分、18本目を中心とした菱形を中央に編みます。



写真22

10

18

26

26段目で菱形の半分ができていきます。



写真23

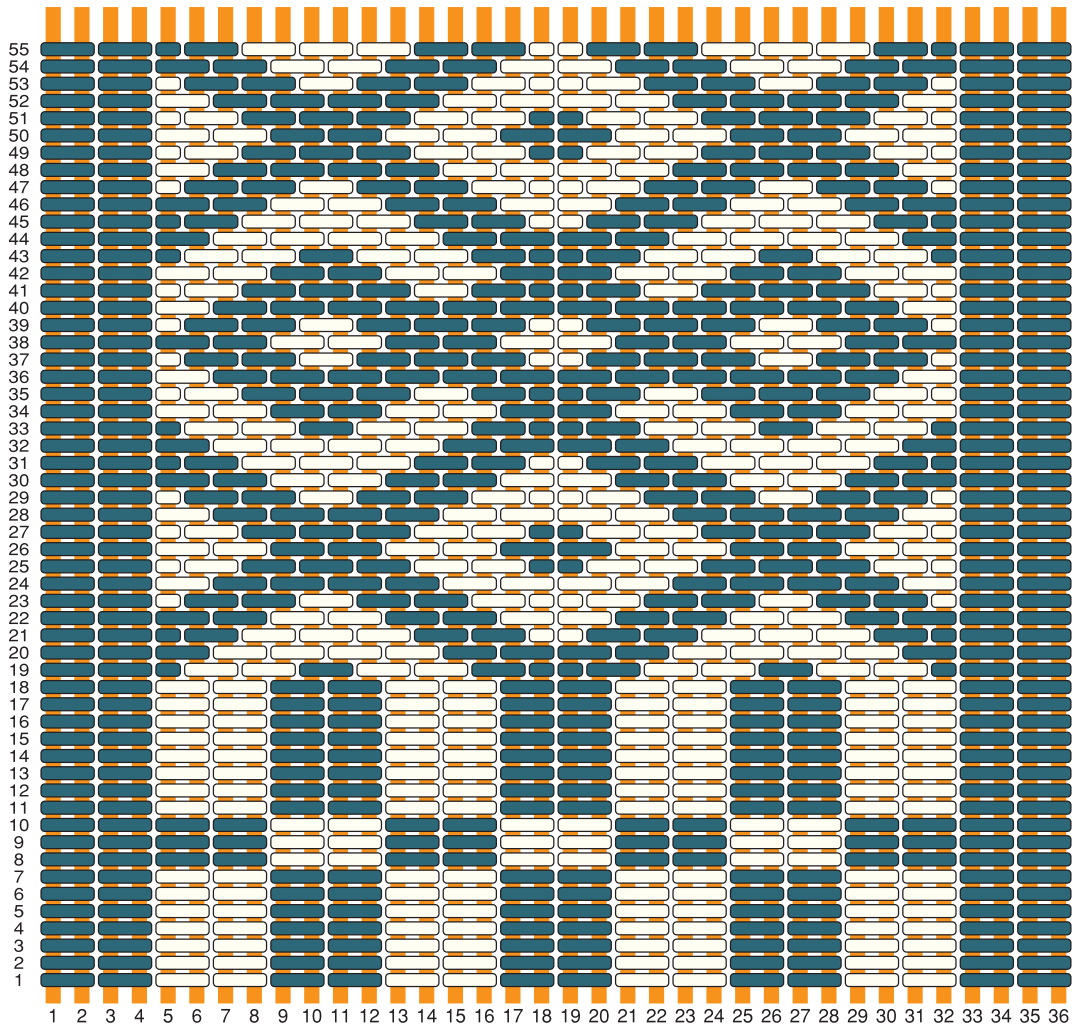


図 8

萱野さんの編み方では、下にできた文様の目数を見ながら左右対称に文様を展開することができます。

中央の菱形が5つになるまで文様を繰り返すとタリペの完成です。



幅 8 cm、長さ 13cm

写真24

## 木綿糸を足す場合

木綿糸が足りなくなった場合は結んで足します。結び目が表や端に出ないように糸の引き具合で調整します。

調整できない場合は、一度切って結びなおします。



写真25

## 編み終わり

木綿糸の結び目が端に出ないように右から2目編み進んだところで編み終わりにします。  
木綿糸は、裏で結んで切り落とします。



写真26-1



写真26-2

## 縄部分を編む

### 8本編み（3本）

締め木で固定したたて糸をはずします。



写真27-1

36本のたて糸を、12本ずつ3つに分けます。  
たて糸が太い場合は、4つに分けることもあります。



写真27-2

両端2本をのぞいた8本のたて糸を2本ずつ撚って  
4本の糸にし、両端各2本の糸と共に8本編みします。



写真27-3

8本編み

- ① 左手で端2本の糸を持つ。
- ② 右から数えて3本目の間に一番右端の糸を入れる。
- ③ 左の糸を上重ねる。
- ④ ①～③を右手に2本の糸が残るまで繰り返す。
- ⑤ 残った2本を持って裏返し、①～④を繰り返す。



写真28

8本編み

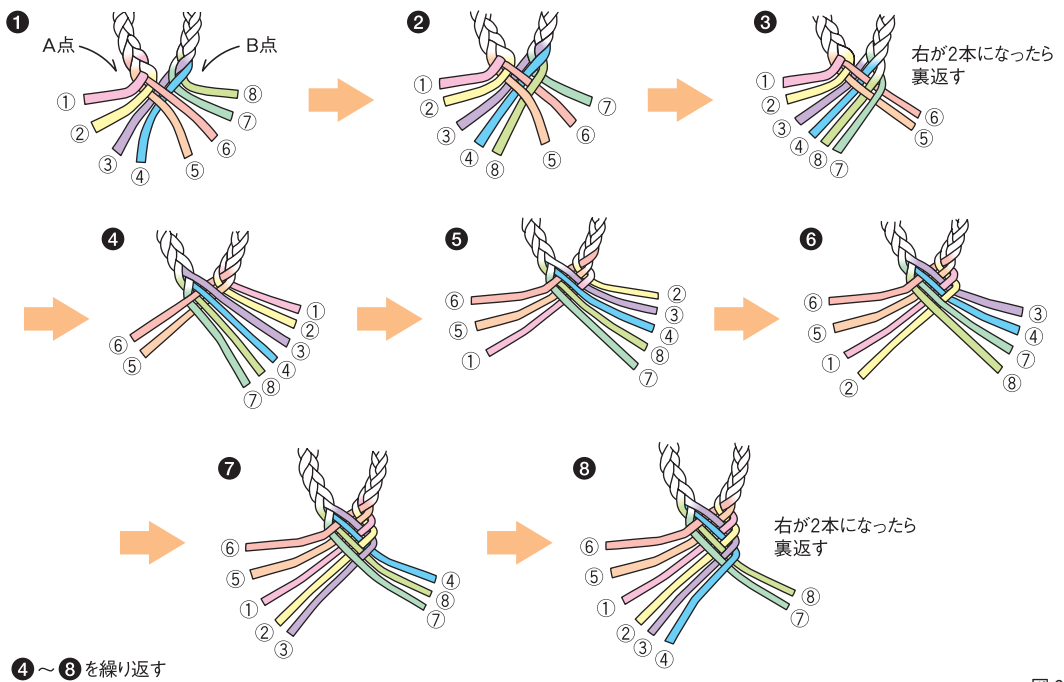


図9

3つに分けたたて糸をそれぞれ15cmほどの長さに8本編みし、3本をひとつにまとめて、別の糸で結びます。



写真29-1



写真29-2

体にあたる部分なので、重なりが平たくなるようまとめます。



写真29-3

## 8本編み（1本）

編み始めの部分が平たくなるようにします。

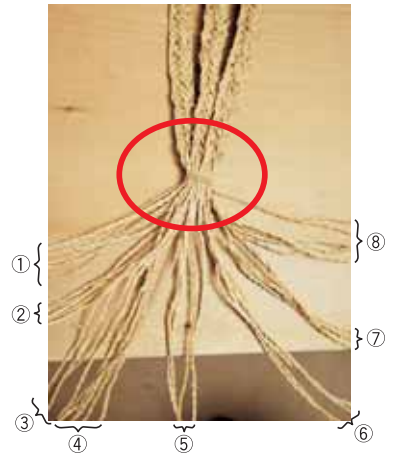


写真30-1

3本を結んだ糸の残りを両端に加え8本編みます。  
(5本×4組・4本×4組)



写真30-2

糸が短くなったところは、シナを足しながら8本編みします。



写真30-3

編み進むうちに糸が少なくなるので、幅は狭くなります。



写真31



最小幅 1.5cm

最大幅 3cm

写真32

## 縄編み

8本編みで長さ150cmほどの長さになったら2つに分けて、縄編みします。縄編み部分は40cmです。



写真33-1



写真33-2



写真33-3

結び目の先を切って完成です。



写真34



片側の紐の長さ：195cm

写真35

## タラの使い方

アイヌの人々が山や川に出かける時は、タラを腰に下げていました。荷物を運ぶ時には、なくてはならない道具だったのです。シナで編んだ紐は、水に濡れても切れにくいと萱野さんはいいます。



写真36-1



写真36-2

## イエオマフ（おぶい紐）

タラに横棒をつけ、子供をおぶる時の使い方です。着物の上から使い、棒の上に子どもの尻が乗るようにします。

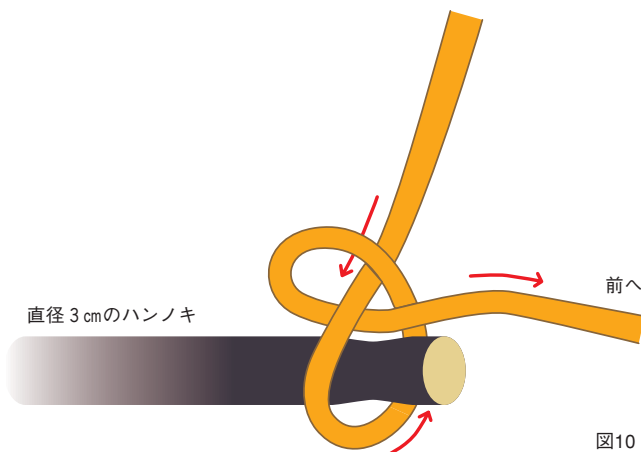


図10



写真37

## 作者紹介

### 萱野れい子

1931年生まれ。北海道沙流郡平取町二風谷在住。

萱野茂二風谷アイヌ資料館前館長である夫の故萱野茂さんとともにアイヌ文化の伝承に力を注いできた。

タラ（背負い縄）の作り方は、姉ふみから指導をうけた。

編み袋・着物・花ゴザ・刀下げなどを作る手仕事を得意とする。



## その他のタラ



シイクンタラ（クマおぶい紐） 杉村京子作  
長さ367.2cm、幅2.5cm、タリペ17.5cm×7.0cm



パッカイタラ（おぶい紐）杉村京子作  
長さ370.5cm、幅2.5cm、タリペ16.5cm×6.9cm

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構所蔵

# エムシアッ (刀下げ)

アイヌの男性は儀礼の際に、刀を盛装として身につけます。その刀を肩から下げるための帯をエムシアッといいます。

エムシアッのエムシとは刀を意味し、武器ではなく儀刀です。アッはオヒョウのことで、材料にオヒョウが多く使われていたことからこの名がついたと言われています。

## 部位の名称と寸法



エムシタラ：無地部分 6cm×40cm (片側)  
文様部分 8.5cm×30cm (片側)  
肩から下がる帯状の部分で、無地部分と文様部分があります。現存するものの中には、無地の部分をイラクサやツルウメモドキの糸で編んだものもあります。

エムシクック：8.5cm×10cm  
刀通しの部分です。エムシアッを下げた時は前後になり、刀を通すことで腰のあたりに刀が納まります。

エムシプサ：15cm×15cm  
刀通し部分の下に付ける四角い布です。2枚の布は共布で作った紐でつながっています。切伏や刺繍が施されたものも多く見られますが、中には動物の毛皮で作られているものもあります。

### エムシアッの製作順

1. たて糸をつくる
2. エムシタラ (無地部分) を編む
3. たて糸を増やす
4. エムシタラ (文様部分) を編む
5. エムシクック (刀通し部分) を編む  
※反対側 (2～5) を編む
6. エムシプサをつける

## 材料

- ・たて糸  
オヒョウの木の皮で燃った糸 (120cm) 36本



写真1

- ・よこ糸  
刺し子糸 (2本どり 茶・白・青)



写真2

## 道具

- ・締め木 (割り箸)、たこ糸



写真3

- ・はさみ、目打ち



写真4

- ・カニツ (糸巻き木)



写真5

## たて糸の準備

締め木の間なたこ糸を1本入れて片側だけを結び、たて糸を2本ずつ入れ、中央になる部分をたこ糸で締め木に固定します。



写真6

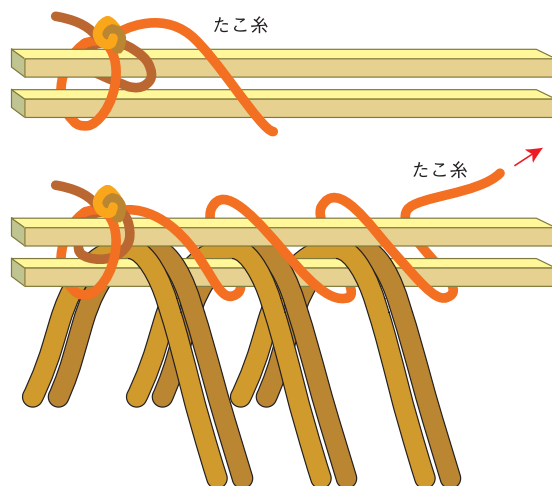


図1

編み始めのたて糸は26本です。



写真7

遠山さんは締め木の部分をカニツに下げて編みますが、天井や壁から吊るして編む場合もあります。

たて糸の先は固定しません。

あとで編む片側のたて糸は、まとめておきます。



写真8

## エムシタラ (無地部分) を編む

エムシタラの無地の部分を編みます。①



写真 9

肩にあたる部分から下に向かって編み進みます。  
遠山さんの編むエムシアツは、帯の中央に白い文様を編みます。



写真10

## 編み始め

茶と白の刺し子糸を結んで使います。  
左から右に向かって編みます。



写真11-1

両端は茶の刺し子糸を2回巻きます。



写真11-2

## 表から見た図

始まり

折り返し

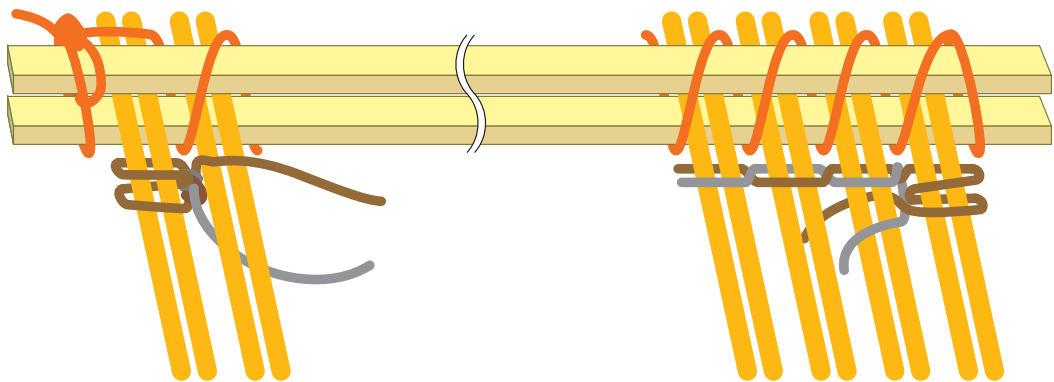


図2

刺し子糸の結び目が端にならないよう調整します。



写真12-1



1 段目 表

写真12-2



1 段目 裏

写真12-3

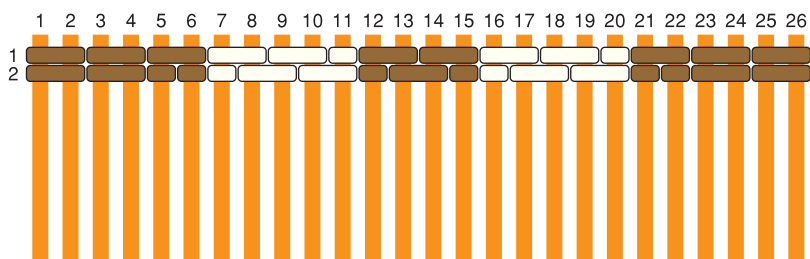


図 3

## 肩にあたる部分の文様を編む

たて糸2本に刺し子糸を巻き、段が変わる毎にたて糸2本と刺し子糸の目をずらして交互に糸を巻いて編みます。

文様によって、半目の部分は異なる場合があります。

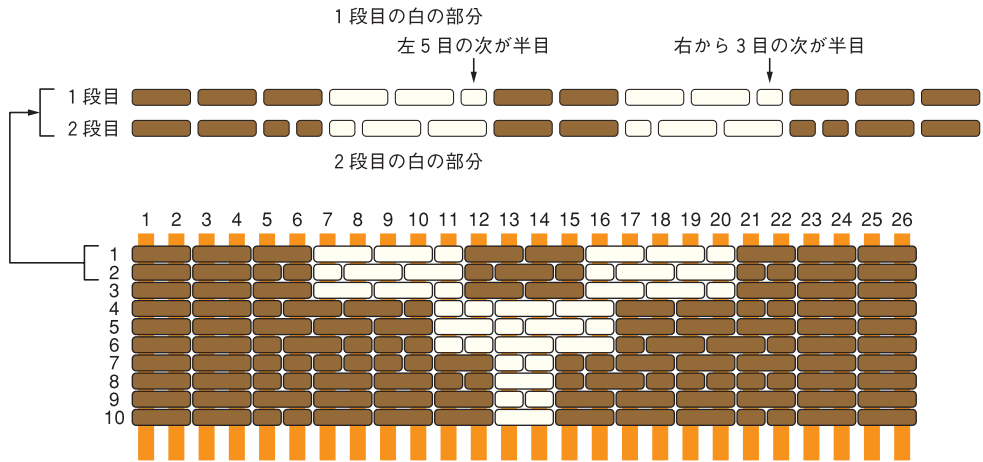


図4

たて糸の本数が偶数のため、半目を編む箇所が偶数になります。



写真13

白い文様は地文様を編む時の目印にもなります。片側で半分仕上がります。

## 地文様

編み始めの要領で、同じたて糸に刺し子糸を巻いて、編み続けることで生まれる文様です。白い文様の中央と両端に編みます。刺し子糸が浮き上がるように仕上がります。

中央の地文様部分から、左右対称に1目、半目の段の繰り返しになります。



写真14

遠山さんは、中央以外にも地文様を入れ変化をつけています。



写真15

## たて糸の増やし方

たて糸26本で編み始め、23cmほどの長さになったら左右5本目の間に糸を1本ずつ足して36本にします。



写真16

注) 燃った糸をほどいてオヒョウを足し、本数を増やしていく方法もあります。また、糸を増やさず同じ幅で編む場合もあります。

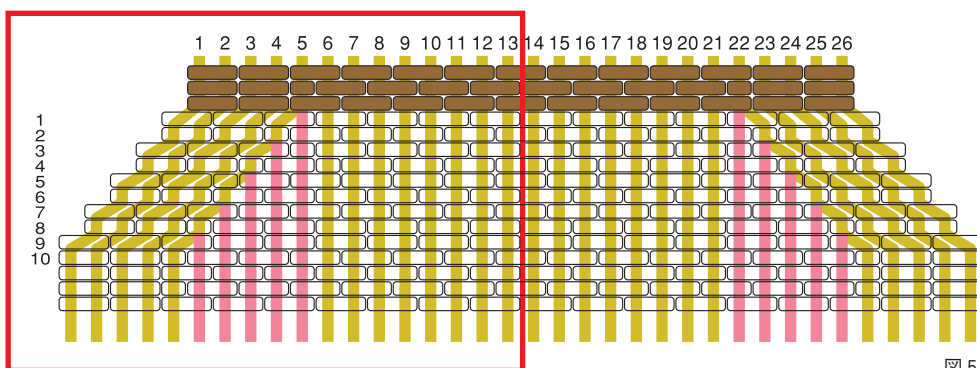


図5

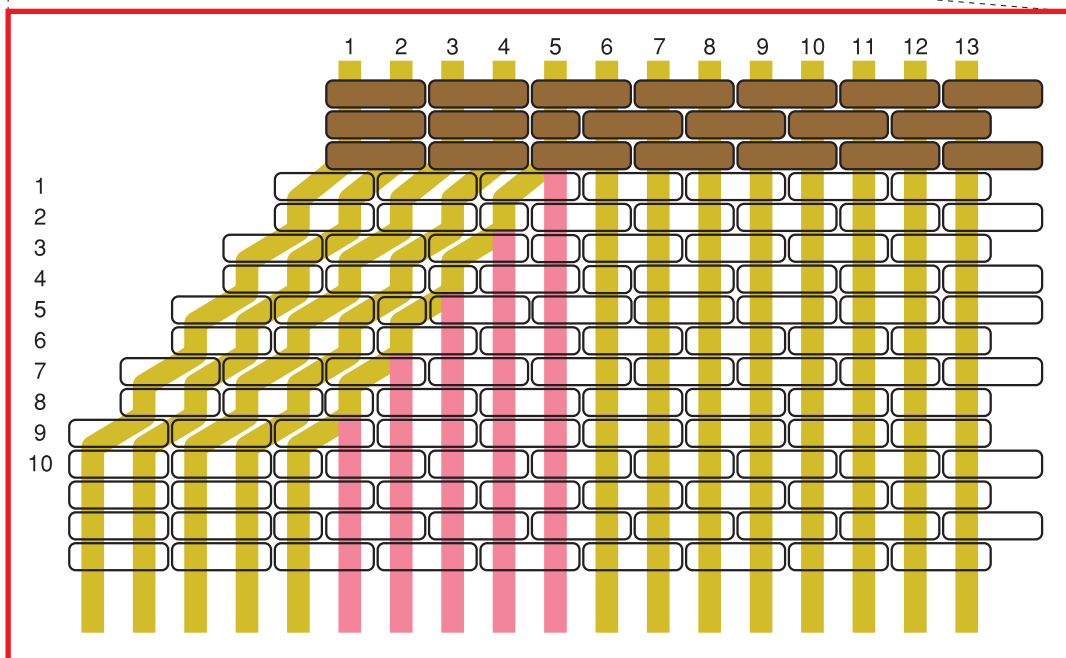


図5の拡大

左から右へ編む「行き」の時にたて糸を増やします。  
足したたて糸を押さえるため、右から左へ編む「戻り」の時にはたて糸を足しません。



写真17

配色を変えるため、茶の糸を切っておきます。



たて糸36本・幅8cm

写真18

## エムシタラ（文様部分）を編む

### 亀甲文様

エムシタラ（文様部分）を編みます。②



②エムシタラ  
（文様部分）

写真19-1



写真19-2

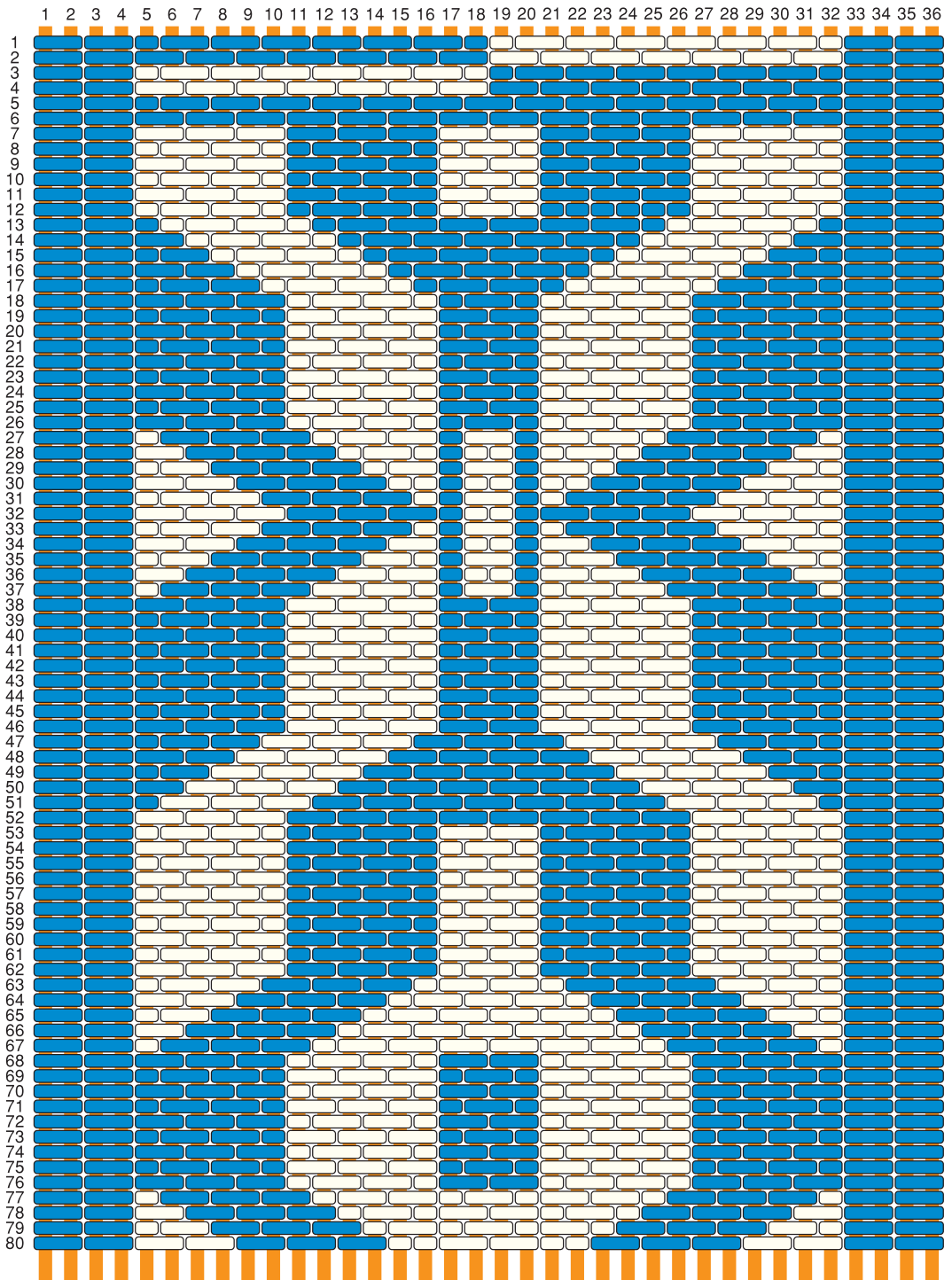


図 6

文様の始まりは、左半分を紺、右半分を白で2段編みます。



写真20-1



写真20-2

3段目からは配色を反対にして2段編みます。  
この4段を編むことで中心がはっきりとわかるようになります。



写真20-3



写真20-4

両端2目をのぞき、左右から白3目・紺3目・真中2目を白にして6段編みます。



写真20-5

7段目から、白を半目ずつ内側にずらして6段編みます。

中心に向かって斜めの線が内側と外側に、2本ずつできあがります。



写真20-6

両側5目のところから3目を白で8段編みます。



写真20-7

9段目からは、両端2目の次からも斜めの線が入るように編みます。

中央に白を1目入れます。



写真20-8

文様の編み始めから37段目で、両端に三角形ができあがります。



写真20-9

左右対称に文様を展開し、72段目で1つの亀甲文様ができあがります。

亀甲文様を2つ半編み、帯状の部分の完成です。



文様部分：片側30cm

写真20-10

文様編みの終わりには、刺し子糸を表の中央で結んで切ります。



写真20-11

両側を編み終わると、無地の中央に白い文様ができあがります。



写真21



写真22

## エムシクツ（刀通し部分）を編む

エムシクツ（刀通し部分）を編みます。③

- ・木綿布（8.5cm×10cm）2枚



写真23

刀通し部分を編む時は、文様部分を裏にして編みます。2目ずつ、茶・白を繰り返し、最後まで同じたて糸で編むことで縞文様になります。



写真24-1



刀通し部分：8 cm 写真24-2



編み始めから刀通し部分まで63cm 写真24-3

編み終わりのたて糸は、指幅1本分を目安に切り落とします。



写真24-4

## 裏の処理

前側と後ろ側を編み終えたら、裏の処理をします。



写真25

足した糸の先は根元で切り、残った糸は編み目の中に入れて目立たなくします。早い段階で切ると、たて糸が抜けやすいので注意が必要です。

## エムシプサをつくる

エムシプサをつくります。④



写真26

表面は切伏せと刺繍で仕上げたものです。  
遠山さんは、ふくろうをイメージして作りました。

- ・ 木綿布 (15cm×15cm) 2枚
- ・ 紐 (1.5cm×30cm) 1本



写真27

刀通しの部分の布は、指3本分のゆとりをとります。  
縫い代の部分をエムシプサに入れ、上から縫いつけます。

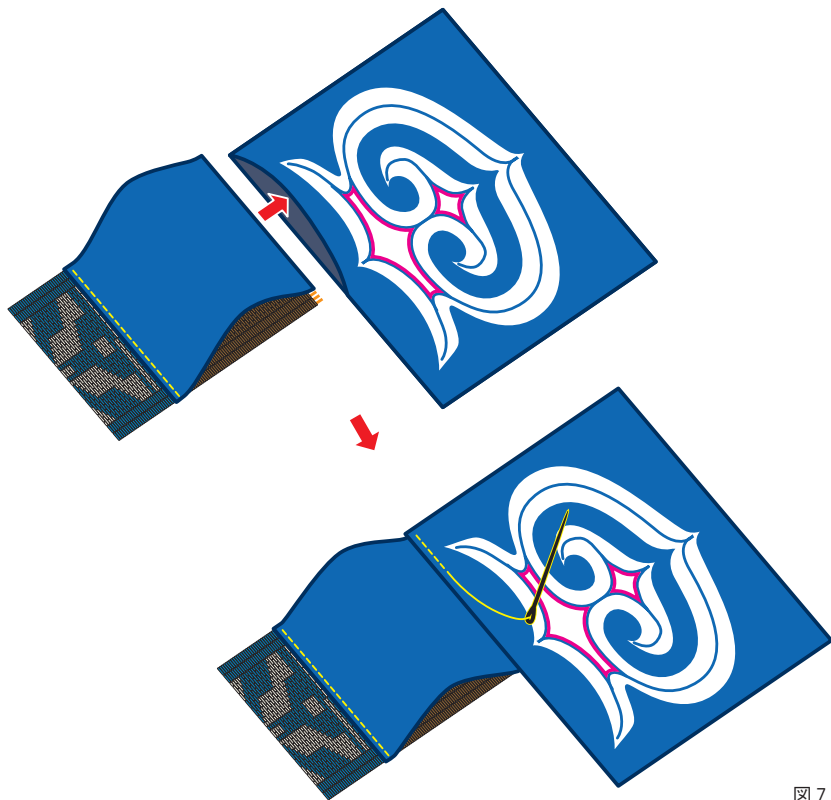


図7

エムシプサの位置は、外側にあわせませす。



注) 作り手により、刀通しがブサの中央や内側に  
合わせてつけられる場合もあります。

エムシクツ：8.5cm×10cm

写真28

## 紐

エムシアツをつないでいる紐は、エムシプサの両内側につけます。



写真29

長い紐の場合は刀に巻きつけて使います。



図 8

## 作者紹介

### 遠山サキ

1928年生まれ。北海道浦河町姉茶在住。若い頃から周りのフチおうな（唄）にウボボ（座り歌）、リムセ（踊り）、手仕事等を生活の中で教えられた。

現在は浦河ウタリ文化保存会等でアイヌ文化の伝承に力を注ぎ、活躍している。

エムシアッの作り方は、故浦川タレフチに指導を受けた。

エムシアッの他、編み袋、アットウシ、鮭皮細工、花ゴザ、イラクサの繊維を取る手仕事を得意とする。



## その他のエムシアッ



長さ70.0cm、幅7.2cm、房飾り11.8cm×14.2cm



長さ78.0cm、幅8.6cm、房飾り12.0cm×12.6cm



長さ85.5cm、幅7.7cm、房飾り13.0cm×14.0cm

## おわりに

アイヌの人々は、タラやエムシアッなどに編まれている文様や作り方を、どのようにして考え、伝えたのでしょうか。

萱野さんと遠山さんが製作に励んだのは昭和に入ってからのもので、作品を見ながら家族やフチに手ほどきを受けたといいます。今回再現した文様は作者が好んで編んでいたもので、二人は図案を見ることなく、タラとエムシアッを再現しています。

萱野さんはタラを実際に使った体験から、タリペの部分編むたて糸を太くして丈夫なものを編む工夫をしています。

数多くのエムシアッを編んだ遠山さんは、使い手の要望に応えることで独自の形と文様を作り出しています。また、肩にあたる部分に白い文様を編むことで、作者である証を伝えているようです。



## 参 考 文 献

タラ・エムシアッを製作するにあたって参考となる文献をいくつか紹介します。

- 萱野 茂  
1978：『アイヌの民具』すずさわ書店
- 古原敏弘・村木美幸  
1998：『アイヌ民族博物館研究報告』第6号  
「エムシアッについて —アイヌ民族博物館が収蔵する児玉コレクションから—」  
財団法人アイヌ民族博物館
- 高野啓子  
1993：『エムシアッを3本編んで』「アイヌ文化18号」 財団法人アイヌ無形文化伝承保存会  
2004：『エムシアッの文様の調査研究 アイヌ女性の手仕事1』
- 津田命子  
2003：『アイヌの組紐 —アイヌの民具にみられる組紐の組成と種類について—』  
フチの手仕事を学ぶ1
- 三上マリ子  
1968：『アイヌの刀綬（エムシアッ）の文様について』  
「北海道の文化14号」北海道文化財保護協会
- 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構  
2000：『収蔵品目録』1 1997.7～2000.3 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構  
2001：『収蔵品目録』2 杉村資料I 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

## タラ・エムシアツを収蔵・展示している施設

タラ・エムシアツを収蔵・展示している博物館・資料館のいくつかを紹介します。

### ◎北海道内

- |                     |                            |
|---------------------|----------------------------|
| ●アイヌ総合センター          | 札幌市中央区北2条西7丁目 かでの2・7       |
| ●財団法人アイヌ民族博物館       | 白老町若草町2-3-4                |
| ●旭川市博物館             | 旭川市神楽3条7丁目<br>旭川大雪クリスタルホール |
| ●浦河町立郷土博物館          | 浦河町西幌別273-1                |
| ●帯広百年記念館            | 帯広市緑ヶ丘2                    |
| ●萱野茂・二風谷アイヌ資料館      | 平取町二風谷                     |
| ●川村カ子トアイヌ記念館        | 旭川市北門町11丁目                 |
| ●釧路市立博物館            | 釧路市春湖台1-7                  |
| ●サッポロピリカコタン         | 札幌市南区小金湯27                 |
| ●新ひだか町アイヌ民俗資料館      | 新ひだか町静内真歌7-1               |
| ●弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館 | 弟子屈町字屈斜路市街1条11             |
| ●苫小牧市博物館            | 苫小牧市末広町3-9-7               |
| ●名寄市北国博物館           | 名寄市字緑丘222                  |
| ●函館市北方民族資料館         | 函館市末広町21-7                 |
| ●北海道開拓記念館           | 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2           |
| ●北海道大学植物園・博物館       | 札幌市中央区北3条西8丁目              |
| ●北海道立北方民族博物館        | 網走市潮見309-1                 |
| ●平取町立二風谷アイヌ文化博物館    | 平取町二風谷55                   |
| ●幕別町蝦夷文化考古館         | 幕別町千住114-1                 |

\*ほかにも収蔵・展示している施設があります。下記の書籍を参照して下さい。

- 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構編  
2006：『バイエアン ロ』アイヌ文化体験学習ガイド  
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

アイヌ生活文化再現マニュアル  
編む — タラ・エムシアツ —

---

2007年3月 発行

発行 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7 (7階)

TEL (011) 271-4171 / FAX (011) 271-4181

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構あてに許諾をお求めください。

